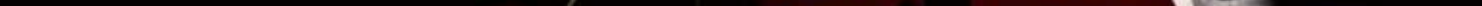


山下達郎に認められた 若手サクソフレイヤー

ジャズミュージシャン

みやざと ようた
宮里 陽太 さん

小林
小人
こばやしびと
Vol.65



サクソフスは言葉より自分を表現できる 本物の音楽を多くの人に届けたい

11月30日に発売された

ジャズのCDアルバム「LIVE PLEASURE」

は、発売後すぐにオーダーが殺到する好状況が続いている。演奏するのは、市出身の若手サクソフスプレイヤー、宮里陽太さん、33歳。

人気シンガーソングライター山下達郎さんに認められ、バックバンドで演奏するほどの実力の持ち主だ。

「サクソフスは言葉よりも自分を表現できる。人の心に響かせ、自分を知ってもらえる最高の楽器です」。

ジャズに出会ったのは、12歳のとき。父親の持っていたレコードを聴き、歌謡曲やポップスにはない、大人の雰囲気とカッコよさに衝撃を受けた。中学生になると吹奏楽部に入部。サクソフスを手にした。1日8時間、月に1度は東京に行き、音楽に明け暮れた。高校卒

業後、洗足学園音楽大学のジャズコースに進学。本格的に音楽の道を歩み出した。

しかし社会人になり、流行の音楽とやりたい音楽にギャップを感じた。うまくいかないことも多くなり、23歳のとき帰郷。その中でも、バンド活動などで、腕を磨き続けた。そして、28歳のとき転機が訪れた。

「都城市でのライブに突然、山下達郎さんが来たんです。僕の演奏を聴き、次の日、電話で誘われました。あまりに急に驚きました」。

1ヶ月後、山下さんの前で演奏し、認められ次の月のツアーから抜擢された。

「2ヶ月で人生が変わった。最初のライブでソロを演奏し、曲が終わった後に拍手をもらったときの感動は一生忘れられない」。

環境の変化は、音楽に対する姿勢も大きく変えた。「1万人以上のライブを経験して知ったことがある。表情や手の動きが見えるくらいごまかしの効かない距離で演奏し、1人の人を感じさせることが最も難しい。本物の音楽を多くの人に届けるため、究めていきたい」。

これからも、本物の音楽を追求し、演奏し続ける。

④ 12月4日、こばやし冬まつりのクリスマスコンサート。高校生のときにも出演した思い出のイベントでもある。⑤ 2ndアルバム「Colors (with Horns & Strings)」のレコーディングはロサンゼルスで行った。

